獨協医科大学病院だより
Dokkyo Medical University

Hospital News

春号
令和7年（2025年）
No.59

CONTENTS

栃木県ドクターヘリ15周年記念式典
診療部門紹介（肥満症治療センター）
診療部門紹介（乳腺科）
職員紹介（乳がん看護認定看護師）
病院へのお手紙に関するご回答

栃木県ドクターヘリ

栃木県ドクターヘリ運航15周年記念式典開催される

3月11日(火)、獨協医科大学研修棟ゆうがおにおいて栃木県ドクターヘリ運航15周年記念式典が開催されました。式典では、栃木県知事の福田富一様や壬生町長の小管一弥様をはじめ多数の皆様にご臨席いただきました。吉田学長からは「ドクターヘリが15年間無事故であることはありがたいこと。患者の搬送、救急措置、緊急の手術などがスムーズに行われるようになり延命、後遺症も少ないという形でうまく活用されている。これからも救急体制を整えて栃木県に貢献したい」との挨拶がありました。

当院を基地病院とする栃木県ドクターヘリ事業は、令和7年1月20日に運航15周年を迎えました。医療機器や医薬品を装備したヘリコプターは病院敷地内のヘリポートに待機しており、運航は本田航空(埼玉県川島町)に委託をしています。救命救急医や看護師が同乗し、現場で重症患者らの初期治療を行ないつつ医療機関へ搬送します。運行時間は強い風雨などの悪天候を除き、午前8時30分から日没の30分前までとなっており、消防機関から要請があった場合、およそ400ある県内全域の着陸ポイントなどに20分以内で到着し対応にあたります。また、群馬・茨城両県のドクターヘリとも連携し、出動要請が重複した場合などに相互応援の体制も構築しています。

出動件数は2015年度の916件をピークに、昨年11月24日には記念すべき1万回目の運航を達成しました。心血管疾患や脳血管障害への迅速な対応で患者さんを救命できたケースも多く、救える命を確実に救う事例を日々重ねており、栃木県の救急医療体制にとってもなくてはならない存在となっております。

改めて、ドクターヘリに携わる関係各位、地域住民のみなさまに感謝を申し上げます。

主催者・来賓の方々

式典の様子

栃木県ドクターヘリ

診療科紹介

肥満症治療センターの開設のお知らせ

獨協医科大学病院　肥満症治療センター　センター長　麻生 好正

この度、令和7年1月1日より肥満症治療センターを開設致しました。

近年、肥満者の増加が我が国も含め世界的な問題となっています。2019年の国民健康調査では、15歳以上人口の21.8%がBMI 25kg/m^{2}以上（肥満1度）、4.5%がBMI 30kg/m^2（肥満2度）であるとされています。特に栃木県では、男女とも肥満者の割合が全国平均を上回っています。肥満は万病の元です。肥満症は、肥満に関連して発症する健康障害を合併するか合併することが予測され、医学的な減量が必要な状態といわれます。2型糖尿病、脂質異常症、高血圧、高尿酸血症、脂肪肝、慢性腎臓病、狭心症・急性心筋梗塞、脳梗塞、睡眠時無呼吸症候群、月経異常、腰痛や膝関節痛といった運動器疾患の肥満に関連する健康障害原因になります。さらに、大腸癌、肝癌、膵癌、乳癌などの癌との関連も指摘されています。

当院では、内分泌代謝内科が2001年より肥満外来を開設し、2019年に上部消化管外科が高度肥満症に対する減量・代謝改善手術（腹腔鏡下スリーブ状胃切除術）をスタートしました。術前術後で、上部消化管外科、内分泌代謝内科、精神神経科、栄養部、リハビリテーション科、看護部（外来・病棟・手術室）によるチーム医療を実践してきました。減量・代謝改善手術が20例を達成し、日本肥満症治療学会の施設基準の申請中にあります。2024年2月に新規肥満症治療薬（持続型GLP-1受容体作動薬）の保険収載があり、内科的な肥満症治療も充実し、新たな肥満症治療の時代に突入しました。

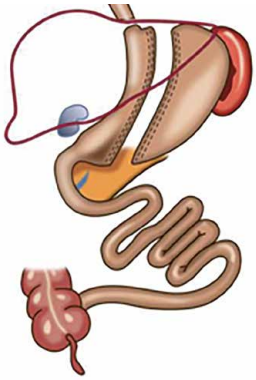
これを機に、令和７年１月１日より肥満症治療センターを設置して、充実した包括的、集学的な肥満症治療に取り組むことになりました。新たに、心臓血管内科/循環器内科、整形外科、睡眠医療センター、麻酔科のスタッフも加わり、より充実したチーム医療になります。肥満症治療センターでは、肥満症の原因・合併症の正確な診断を行い、個々の患者さんの特徴に合わせた食事療法・運動療法、行動療法、薬物療法、そして減量・代謝改善外科手術を選択して、オーダーメイドの肥満症治療を実践いたします。

どのような患者さんが対象になるのか簡単に説明します。

持続型GLP-受容体作動薬肥満症治療薬（ウゴービ®）は、20歳以上で、2型糖尿病、脂質異常症、高血圧のいずれかを有し、食事療法・運動療法を6か月間以上行なっても十分な減量効果が得られない、①BMI 35kg/m^{2}以上の患者さん、あるいは②BMI 27kg/m^{2}以上の場合は2つ以上の上記の肥満に関連する健康障害を有する患者さんとなります。一方、減量・代謝改善手術の適応は、18~65歳の6か月以上の内科的治療で有意な体重減少および肥満関連健康障害の改善が得られない患者さんで、①BMI 35kg/m^{2}で糖尿病や脂質異常症、高血圧、睡眠時無呼吸症候群、代謝機能障害関連脂肪性肝疾患の1つ以上を有すること、②BMI 32~34.9kg/m^{2}でHbA1c 8.0%以上の糖尿病や脂質異常症、高血圧、睡眠時無呼吸症候群、代謝機能障害関連脂肪性肝疾患の2つ以上を有することとなります。

院内・院外問わず、治療対象となる肥満症の患者さんがおられましたら、是非、肥満症治療センター（まずは、内分泌代謝内科の金曜日外来）へご紹介いただけますと幸いです。堅く考えず、気楽にご相談をお願いいたします。何卒、ご支援、ご協力のほど宜しくお願い申し上げます。

●写真（上）肥満症治療センター　スタッフ
●左下：肥満症治療薬（ウゴービ®）
●右下：スリーブ状胃切除術



診療科紹介

乳がんの外科的治療

獨協医科大学病院　乳腺科　診療部長　中川 剛士

乳がんの治療は、外科手術、化学療法（抗がん剤治療）、内分泌治療（ホルモン治療）、放射線治療を組み合わせて行います。肝臓、肺、骨、脳などへの転移を有するStageⅣの乳がん以外は、基本的に外科手術を中心に治療を進めていきます。今回は、乳がんの外科手術についてお話を致します。

乳がん手術は大きく3種類に分けられます。

1つ目は、乳房全切除術です。昭和の時代の乳がん手術は、この乳房全切除術に加えて大胸筋小胸筋も切除し、周辺のリンパ節も根こそぎ切除し、出血も多く、術後は腕のむくみが高頻度で生じておりました。この術式は「定型的乳房切除術」と呼ばれておりましたが、今はほとんど行われません。現在の乳房全切除術は大胸筋小胸筋を残し乳房を切除し、適切な薬物治療、放射線治療を組み合わせることにより、「定型的乳房切除」に比べてよい治療成績が得られるようになりました。しかし、乳房の喪失による外観の変化が術後の懸念になります。

2つ目は乳房部分切除術です。乳がんから1－2㎝離して乳房の一部を切り取る方法です。乳がんが大きい場合は適応が難しいことがあります。術後に残った乳房に放射線をかけることにより、俗に言う「乳房温存術」となります。しかし部分切除といえども、健常側の乳房と全く同じにすることは、困難です。

3つ目は、乳房切除に加えて乳房再建術を行う方法です。この手術は乳腺科と形成外科が合同で行います。乳房再建術は、乳房を切除した後に、乳房の形を再建する手術です。早期の乳がんでは、乳房全切除術のみならず、皮膚温存乳房切除術（乳頭乳輪をくりぬいて乳房切除を行う）または乳頭乳輪温存乳房切除術（乳頭乳輪と皮膚をすべて残して乳房切除術を行う）に乳房再建を加えることもあります。乳房再建の方法は、人工物（シリコンインプラント）によるものと自家組織移植があります。自家移植は、主に2通りあり、患者自身の背中の皮膚や脂肪、筋肉を用いる広背筋皮弁再建と、腹部の脂肪組織を用いる腹直筋皮弁・腹直筋穿通枝皮弁再建があります。さらに乳房再建を付加する時期により1次再建と2次再建に分けられます。1次再建は乳がんの手術と同時に乳房再建を行う方法です。2次再建は乳がんの手術後、一定期間を経てから乳房再建を行う方法です。従って、以前の手術で乳房を失ってから長い時間が経過している方や、進行がんで薬物治療や放射線治療が一段落したのちにも、乳房を作り直すことが可能です。また再建手術を1度で済ませることを1期再建、2回以上の手術で乳房再建をおこなうこと２期再建と言います。当院では主に1次2期再建でより整容性の高い乳房再建手術を行っております。これは1次再建として、乳房切除後に組織拡張器（エキスパンダー）という生理食塩水のバックを大胸筋下に留置し、3～6か月かけて、そのバックに生理食塩水を複数回注入し、前胸部の皮膚を伸ばします。最終的に2期再建として、そのバックを取り除き、最も整容性の高い方法を選択し乳房再建を行っています。これらの方法に脂肪注入術を併用することで、より整容性を高める工夫をしております。なお、患側の乳頭乳輪は適切な位置に作り直すことができます。

当科では、病状を正確に把握し、上記3種類の手術から適切な術式を選択します。特に乳房再建術は、形成外科の先生方とともに力を入れております。

チリ・アンデスの土人形
（病理医の友人からのチリ土産）

職員紹介

乳がん看護認定看護師

医療・看護支援室　町田 恵理子（左）
新館4階病棟　上野 佐由利（右）

1．乳がん看護認定看護師とは

乳がん看護の質の向上を目指し、2006年に日本看護協会より認定された資格です。2024年12月現在、全国に395名（うち特定行為が行なえる特定認定看護師52名）栃木県内に９名おり、各施設で活躍しています。当院には２名おり、新館４階病棟と医療・看護支援室に配属されています。

2．乳がん看護認定看護師の役割

1）乳がん診断後の心理的サポートとして、告知による不安を軽減し、治療に前向きに取り組めるように、患者さんの心理的サポートを行います。

2）意思決定支援として、手術療法の術式決定、術前化学療法、術後補助療法、再発転移の治療、緩和ケアにおいて、患者さん一人ひとりの思いから必要な情報提供を行い、患者さん自身で意思決定できるように支えます。

3）ボディイメージの変化への支援として、手術による乳房喪失や変形、化学療法による脱毛や皮膚障害等において、治療前から、乳房を含む身体への思いを傾聴し、変化が生じたときの気持ちに寄り添い、心理的サポートを行います。術前には創部の位置や長さ、乳房の補整についての説明、化学療法前には、ウイッグや帽子などの外見をカバーできる方法などを情報提供し、一人ひとりに合わせたサポートを行います。

4）治療に伴う症状緩和とセルフケアとして、患者さんの生活に合わせて対処方法を一緒に考え、セルフケアが行えるよう関わっています。

5）チーム医療として、手術療法、放射線療法、薬物療法と集学的治療が行われる乳がんは、患者個々に応じたアプローチが必要になるため、患者、医師、看護師、多職種でのチームワークを発揮し、患者さんの意思を尊重したその人らしい生き方を支援できるようチームに働きかけています。

6）スタッフ教育として、乳がんの治療や患者支援に対するスタッフからの相談を受け、適切な乳がん看護ができるよう、スタッフ支援を行っています。

3．活動内容

新館4階病棟に所属の上野の業務として、主に手術を受ける患者さんへのボディイメージの変容への看護やリンパ浮腫予防をスタッフとともに患者さん個々の生活を大切に支援しています。また、再発転移や症状緩和のため入院している患者さんへ、病棟スタッフや医師、外来看護師、医療・看護支援室、緩和ケアチーム、退院サポート、栄養士、薬剤師など多職種と協働しながら、症状緩和を図っています。そして、患者の気がかりや抱えている問題についてカンファレンスを行い、安心して生活できるよう取り組んでいます。

医療・看護支援室に所属の町田の業務として、乳がん患者の手術説明時に同席し、治療の受け止めや術式選択への思い、社会的役割を把握し、その方のニーズに合わせた関わりを行っています。また、外来化学療法室において、抗がん剤治療による副作用や生活への気がかりを把握し、その人らしい生活が送れるようにともに考えながらサポートしています。また、乳がん患者だけではなく、他のがん患者の治療説明時の同席やその後の心理的サポートができるよう、外来や病棟に訪問し、面談を行い、医師や病棟看護師等と協働しています。

乳がん患者さんの指導用の乳房補整パットや下着の見本

～病院へのお手紙に関するご回答～

不安で入院しましたが年寄りのふざけた冗談にも嫌な顔をしないで対応してくださり、ありがたく、気持ちが楽になりました。

（回答）温かいお言葉、ありがとうございます。患者さんに寄り添い、安心した入院生活を送ってもらえるように今後も努力していきたいと思います。

外来の付き添いのために遠方から別車両で来た人の駐車料金を、高額で払わせるのですか。

（回答）ご意見ありがとうございます。外来受診のため、患者さんの付き添いで別車両で来た場合、駐車料金は外来患者さんと同様の料金になります。正面玄関受付（守衛）でその旨を伝えていただくとＱＲ駐車サービス券を発行します。

NICUの皆様、いつも丁寧にみていただきありがとうございます。不安や心配で押しつぶされそうになっている中、親身にお話を聞いてくれ、いつでも最善を尽くしてくれて夫婦ともども感謝しております。

（回答）温かいお言葉を賜り、心より感謝申し上げます。大切な赤ちゃんが健やかに成長するよう、職員一同全身全霊頑張って参ります。希望を持って頑張って行きましょう。

正面受付のビニールシートについて、感染対策の為だと思いますがマスクをしていて余計に声が届かず、お互い声を張って話すので大変です。改善を願います。

（回答）ご迷惑をお掛けし大変申し訳ございません。今後はビニールシート撤去予定となりますのでよろしくお願いいたします。

看護師・薬剤師募集

当院では、看護師・薬剤師を募集しております。採用試験等については、ホームページ採用情報の職員募集サイトをご覧ください。

〒321-0293
栃木県下都賀郡壬生町北小林880
獨協医科大学病院　庶務課職員係
電話 0282−87−2038
E-mail　shokuin-b@dokkyomed.ac.jp
(受付時間:月～土　8:30～17:00)＊休日除く

病院機能評価認定
Japan Council for Quality Healce Care

当広報誌は
当院ホームページより
ご覧いただけます。

獨協医科大学病院　検索

https://www.dokkyomed.ac.jp/hosp-m/

獨協医科大学病院だより
春号 No.59
2025年（令和7年）
〒321-0293 栃木県下都賀郡壬生町大字北小林880番地
TEL 0282-86-1111(代表)　FAX 0282-86-4775
発行年月日／令和7年5月
発行・編集／獨協医科大学病院　印刷／鈴木印刷株式会社